

2019年1月4日

**東急グループ代表 野本弘文・東京急行電鉄(株)取締役社長 高橋和夫**  
**年頭あいさつ【要旨】**

東急グループ

**1. 東急グループ代表 野本弘文 年頭あいさつ（東急グループ各社トップに対する年頭あいさつ）**

(1)日 時 2019年1月4日(金) 9時10分

(2)要 旨

グループ各社で年末年始に大きな事故もなく、無事に新年を迎えられたことを喜びたいと思います。

世界経済は、ユーロ圏やアジア経済の若干の鈍化傾向はあるものの、昨年並みの成長率と予想されていますが、何が起こるかわからないのが現状です。また、国内では10月の消費税率引き上げを控え、一部には軽減税率が適用されることもあります。特にリテール関連の部門においてはしっかり準備をして対応してください。

グループに関連する分野では、都内のオフィスビル需要は旺盛ですが、新築マンション市場は人口減少や販売価格の高騰を受け、縮小傾向にあるため、より一層しっかりと目線で物件を見ていく必要があります。訪日外国人客数は増加しているものの、消費そのものは減っており、国内の個人消費は依然として節約志向が見られます。私たちがお客さまに提供している価値は何なのか、その価値をいかに高めていくかを常に考えてください。

2018年度、グループ各社の経営計画は概ね順調に進捗していると聞いており、あと3カ月間、予算達成をしっかりとお願いします。

2019年度は、東急電鉄・東急建設は中期経営計画の2年目、東急不動産ホールディングスは3年目に当たりますが、いずれの目標年度であるオリンピックイヤーの2020年に向け、事業環境の変化を注視しながら、会社の舵取りをお願いします。

新たな元号に変わる2019年は、東急グループにとっても特別な意味を持つ一年です。東急グループ事業の原点である鉄道事業を新会社として新たにスタートさせますが、安全性、安定性、利便性、快適性などへのお客さまニーズの高まりに対し、よりスピード感を持って対応してください。お客さまから愛される鉄道があってこそ「日本一住みたい沿線」になることを忘れないでください。

さらに、グループの本拠地である渋谷では、大規模プロジェクトが順次竣工開業し、ピークを迎えます。展望施設「渋谷スカイ」や産学交流施設「渋谷キューズ」を擁する「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」の開業や、「渋谷フクラス」の竣工が秋に、さらに「南平台プロジェクト」が3月に竣工するほか、「渋谷駅桜丘口地区」のプロジェクトも今年から着工し、2023年度の竣工を目指します。年内には大改造の大半が完成しますが、次の渋谷の姿をしっかりと思い描き準備を進めてください。

渋谷以外でも、本年は、「南町田グランベリーパーク」が秋に開業し、富士山静岡空港の運営開始や、伊豆での「観光型MaaS」の実証実験、「大阪エクセルホテル東急」の開業など、様々な事業が進展します。

近年、サステナブル経営が企業価値の評価基準となっており、SDGsやESG投資などが注目されています。この流れは、サステナブルな「街づくり」「企業づくり」「人づくり」を創立以来連綿と行ってきた東急グループの取り組みそのものとも言えます。

いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが翌年に迫り、渋谷駅周辺開発もピークを迎え、世界中の人々に渋谷、東急グループに触れていただく、またとない機会になります。東急グループが「ひとつの東急」として強い企業集団であり続けるために、各社の力を合わせ、お客さまの期待に応えてください。

2019年は、「新生東急」の船出の年にあたります。次の100年に向けて成長していく企業であるために、お客さまが感じる価値を上げ続ける「バリュー・アップ」、正しい判断と決断、実行の速度を上げる「スピード・アップ」、仕事を元気に楽しく前向きに進める「チア・アップ」の「3つのアップ」をさらなる飛躍のための指針として、グループ全社が気持ちを1つにしていきましょう。

## **2. 東京急行電鉄(株)取締役社長 高橋和夫 年頭あいさつ (東急電鉄社員に対する年頭メッセージ)**

(1)日 時 2018年1月4日(金) 10時10分

### (2)要 旨

鉄道をはじめ、各事業の第一線で勤務している現場の皆さんが、年末年始も変わらず「安全」の確保に取り組んだおかげで、責任事故もなく、こうして新年を迎えることができたことを感謝したいと思います。

すべての事業を「安心・安全」を基に遂行することが、お客さまの東急ブランドに寄せる信頼の源泉であることを忘れずに本年もやっていきましょう。

昨年は全国各地で大変災害の多い年でしたが、当社事業においても少なからず影響がありました。不測の事態に備え、日常の正則作業を確実にに行い、点検も怠ることなくお願いします。

中期3か年経営計画の初年度となる2018年度業績は、通期目標は達成できる見通しですが、残り3カ月、しっかりと事業推進をお願いします。

2019年は最も重要な施策として、9月を目途に鉄道事業会社を新設し、鉄道事業を分社化します。その目的や意義は、昨年の秋以降話している通りですが、それを踏まえ、現在は鉄道事業本部中心に現業の皆さんの意見を取り入れながら、新会社設立に向けての準備を行っています。鉄道事業の分社化は全社的な取り組みです。鉄道以外のすべての部門においても、もう一度自らを振り返るきっかけとしてください。鉄道会社は、「日本一」を目指して必ずや良い会社につくり上げていきますが、一方で事業持株会社もそれに負けないくらい、レベルの高いものにしていきましょう。

主な事業では、昨年の「渋谷ストリーム」、「渋谷ブリッジ」に続き、いよいよ本年秋には「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」が開業、また同時期に「南町田グランベリーパーク」も開業します。共に当社の成長に大きく寄与することが期待されている案件で、この成功なくして次の展望が開けないといっても過言ではありません。全社を挙げて取り組んでいきましょう。

そのほか、各事業、一般管理部門においても課題は少なくないですが、やるべきことは明確です。遺漏のないよう事業遂行をお願いします。

2019年はさまざまなビッグイベントが行われますし、当社においても非常に重要な施策や大型案件の開業が続きます。社会の変化を確実に捉え、遅滞なく事業遂行することが何より肝要であることは言うまでもありませんが、得てして、こうした時に「好事魔多し」ではありませんが、小さなほころびが見過ごされたりすることがあるものです。

たった一つの油断やミスから大きくブランドを毀損することを私たちは身にしみて知っているわけですし、「安心、安全」の基本は日々の着実な積み上げでしか成し得ないこともわかっています。そのことを肝に命じながら、本年も力強く、誇りを持って、元気よく、事業を進めていきましょう。

以 上